

ていばく展示場紹介⑤

博物館の「ぶれみあむ」コーナー 「逓信博物館の100年」展より

博物館創設以来100年間の収集品の中で、今では購入困難で、ぶれみあむが付いている郵便に関する貴重資料を特別に展示しました。今回は、普段見られない郵便の「お宝」資料をご紹介します。

来館者に一番人気があったのは、世界最初に発行された切手ペニーブラック（1840年）、日本最初に発行された竜文切手シート（1871年）や桜切手・半銭シート、日本最初の葉書などの切手類とその原版や手彫切手のエンタイヤでした。また、橋天敬が博物館新築記念に描いた「日暖かし帝城の春」は、桜を主題とした6曲の屏風絵で、見るものを引き付ける日本画の美しさが表現されていて圧巻でした。

扇子原画のコーナーでは、横山大観が描いた「富士雪景」や川合玉堂「緑陰投網」など有名画家が描いた扇子の原画と扇子の展示をしました。簡易保険局が大正13年より事業功労者への贈呈用として制作したものです。

再現展示会のコーナーでは、明治35年「万国郵便連合加盟25年記念祝典」記念展示会出品目録の中から当時を一部再現しました。その主な展示品は、最初の切手や葉書の原版、郵便創業時の郵便行李・創業時の通信日付印である検査済木印や賃銭切手済印、駅鈴・駅鈴型香合、絵符などです。



「緑陰投網」昭和9年 川合玉堂画



「日暖かし帝城の春」昭和39年 橋天敬画

学芸員雑記帳

「小型記念通信日付印」

公の式典や催物を記念するため、関係地の郵便局で特定の期間使用される通信日付印のことで、昭和9年（1934）5月22日から24日まで「徳島県小松島築港竣工記念」のために使用されたのがその初めです。直径32mmで特殊通信日付印より印面がやや小さいことから「小型記念」の名称が付けられました。

この印の形式は、印面上部2/3の部分に図案・記念事項の名称、下部1/3の部分に年月日と局名を上2段横書きで表示することとされています。

では、当館が特別展を開催した時の最近の小型印をご紹介します。皆さんもこのような小型印収集をされてみてはいかがでしょうか。（井上恵子）

